

? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?
 ?
 ? 真の悔い改めとは何か ?
 ?
 ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

B. R. ヒックス著



Christ Gospel Press
 P. O. Box 786
 Jeffersonville, Indiana 47131-0786

This book is a direct translation of the English version, which is copyrighted in the USA in the name of Christ Gospel Churches International Incorporated, PO Box 786, Jeffersonville, Indiana, 47131-0786 and registered with the United States Copyright Office in Washington, D.C. Under the world treaty, all rights are reserved. No part of this publication may be produced, stored in a retrieval system, or transmitted in any graphic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise without the prior written permission of the author and publisher.

本書は英語版からの直接の翻訳であり、原書のアメリカ合州国における著作権は Christ Gospel Churches International Incorporated, PO BOX786, Jeffersonville, Indiana, 47131-0786 によって所有されています。またその権利は、ワシントンD. C. にある the United States Copyright Office に登記済みとなっております。国際条約により、すべての権利は確保されています。この出版物の如何なる部分といえども、著者並びに出版社から予め書面による許可を得ない限り、情報検索システム内での提示、保存、また、如何なる図形的、機械的、写真による複製、記録がなされることなどを禁じます。

Publisher: Christ Gospel Churches International, Inc.

P. O Box 786

Jeffersonville, Indiana 47131-0786

© Christ Gospel Churches International, Inc., 1990, **What Is True Repentance?**

版權所有

アメリカ合衆国及び日本にて印刷

Japanese Edition, 真の悔い改めとは何か © Christ Gospel Churches International, Inc., 2013

詳しい情報や聖書に関する書籍等は、下記のホームページをご覧ください。
米国のクライスト・ゴスペル・チャーチ

www.christgospel.org

日本のクライスト・ゴスペル・チャーチ

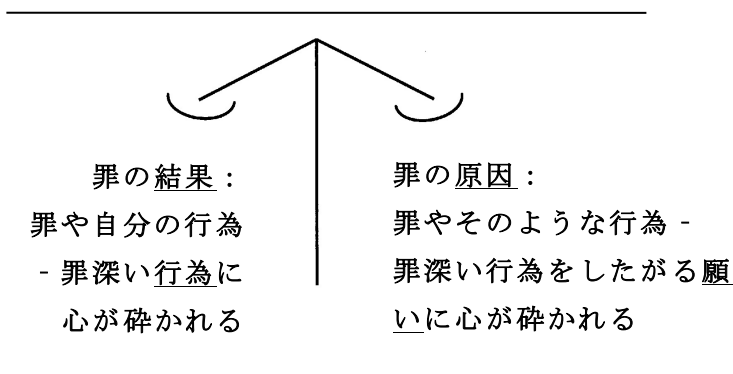
www.christgospel.sakura.ne.jp

真の悔い改めとは何か

人がキリストの下に来て値がつけられないほどの高価な救いを受けるには、その心の中に悔い改めという気持ちが最初に生じる必要があります。それから、その悔い改めた人が引き続き、キリストの霊的な身たけの教育と道徳的な発育にあって進歩するのには、毎日悔い改めが必要となります。

人の過ちのうちで最も大きいものは、自分に過ちがあることに気がつかないことです。ある人は自分の周りの人の過ちは簡単に見付け出します。しかし、真実で誠実な心の持ち主は、自分の過ちを認めて悔い改めるのです。

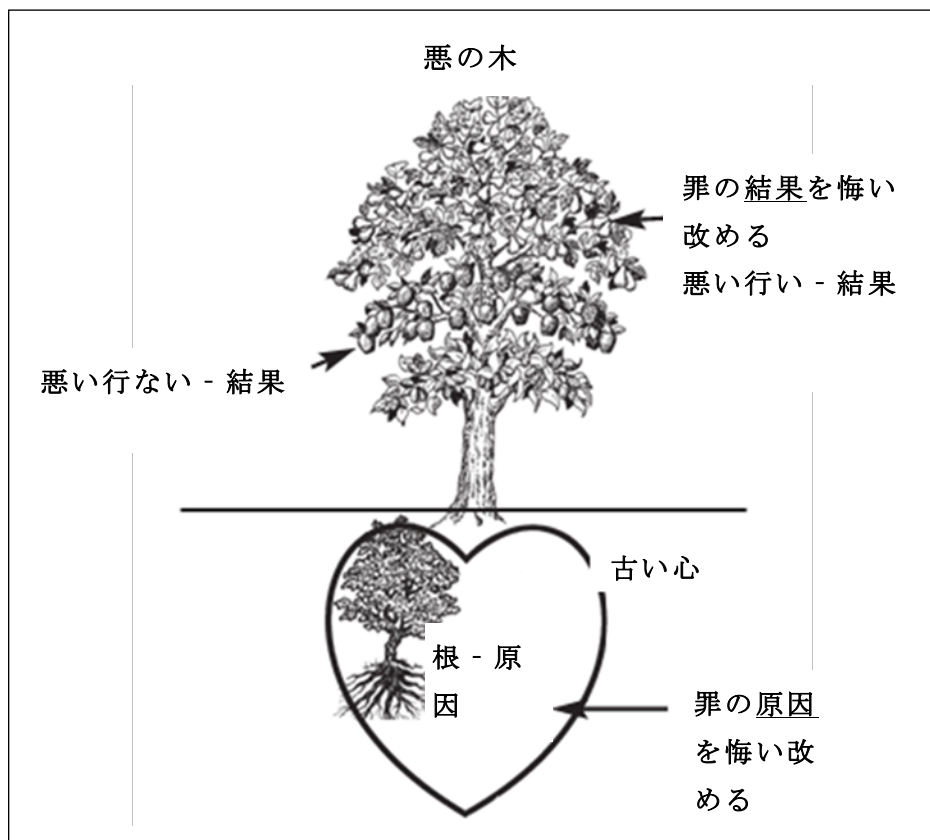
私たちが神のことばを学ぶにつれ、真の悔い改めは、罪の結果ために砕かれた心、また罪の原因により砕かれた心から成り立っているのがわかってきます。



神の御霊が私たちの心に働いて罪の結果をいさめられると、罪深い行為を犯してしまった部分に対して深い悲しみで心は砕かれ、ひびが入り、裂かれてしまいます。この罪深い行為とは、私たちの古い心の中に住む悪い願いや悪へと逸れて行く傾向（悪い傾向）の結果です。罪深い行為は、世

界の始めに人が罪を選択した結果、私たちが受け継いでしまった古い心、すなわち肉的なアダムの性質に住んでいて原因となっている、悪い願いという根から生え出た実です。

罪深い行為の結果を悔い改めても、その原因である、罪を魅力的で心地よいものと思わせる、私たちの肉的な心の中にある悪い願いを悔い改めないでいることもできるのです。



私たちが罪の原因だけでなく結果も持っているということからして、昨日や今日犯した行為を悔い改めても、明日になるとまた同じ悪、同

じ罪深い行為を悔い改める人がいることの説明がつきます。そういう人たちは罪の結果を悔い改めたのであって、罪の原因を悔い改めたわけではなかったのです。

そういう人は、主イエス・キリストに罪の原因である根、すなわち古い心の中に住む罪を犯したいという悪しき願いを処分してくださるようお願いしていないことは明らかです。バプテスマのヨハネは悪の根、すなわち罪を犯したがる願いに斧を当てるようにと命じています(マタイ 3:10)。

罪の行為の実が取り除かれると、古い心の中の悪い願いの根は寂しく、悲しく、何かを奪われて空^{から}になったように感じてしまいます。そのようなわけで、悪い願望の根は、悪い実をさらに多く生じさせる方法を企てたり、計画したりし始めます。このような生来の悪い傾向が、自分に満足感をもたらすのはこれしかないと感じさせているのです。しかし、罪は墮落したルシファーという嘘つきによって育まれたものであるのです。欺瞞^{ぎまん}に満ちています。

私たちは罪深い行ないを告白して悔い改め、罪の実を棄てたとしても、罪を犯させる、つまり罪を犯したいと願わせる悪い傾向を悔い改めて根を殺さないと、その根である原因は自分の心の中に何度も罪の実を産むことになるのです。

古い心にある罪の原因を悔い改める



人は、自分が犯した罪深い行いを表面的に悔い改めても、その人の古い心の中に残っている原因、つまり悪い根から自分の心を神が絶って裂いてくださるように許容しない限り、以前犯した罪深い行為に戻って、また同じの悪い行ないを繰り返してしまいます。

私たちの心が罪の原因から絶たれると、罪を犯したいという願いを悔い改めることができます。私たちの罪の実が自分の生活から取り除かれて、嘆かわしい失望、虚しさ、寂しさで満たされている時には、罪を犯したくなるその根、つまり願いを悔い改める必要があります。

私たちの肉の考え方とは裏腹に、私たちの罪深い行ないは、心の奥底にある願望を惨めにも満足させません。その結果、自分は欺かれていて、このように神から独立することは罪深く、それは自分を満足させるものではなかったと気づき、過去にしてしまった行ないに対して心は常に良心に打たれ、悲しみ、悔やんでしまいます。神だけが新しい心にも古い心にも真の満足を与えることができるお方であられることを心に留めておいてください。

私たちの心が罪を犯したいと願う「罪の原因」から本当に砕かれている時、私たちは、自分の心の中に変化を体験します。そして、私たちは自分の古い心にある悪い願いという原因を棄てる堅い決心をすることができるのです。思い、考えの中に変化が起きた後には、自分の方法や行ないに変化が起こるのを体験します。

人によっては自分の行ないが間違っていることが理論的にわかっているので、悔い砕かれて罪の結果を悔い改めをする人もいます。しかし、そういう人は体験的にその悪い願いから生まれる虚しさと罪の嘆かわしい失望感を味わって悟っていないので、変化や改心することは全くありません。

人がその思いで罪深い行為によって生じた虚しさと惨めさを見ることができ、また古い心が悪い願いという罪の原因から来る嘆かわしい失望感を

感じる事ができれば、本当の意味で外側でも内側でも悔い改める準備ができるのです。その時、本当に忠実に聖霊がその人の霊と魂を砕き、罪の結果から砕かれることと、罪の原因から砕かれる寂しさを知らせてくださいます。罪深い行ないも、罪深い願いも、すべての罪は、私たちを神から引き離してしまい、私たちを惨めで卑劣な被造物にしてしまいます。

このように、真の悔い改めは、単に天秤の理論側で罪深い行為を悲しんで泣くだけではなく、罪を犯したいという悪い願い、つまり原因から私たちが悔い改めて体験側でも悲しんで泣くことでもあるのです。私たちは、罪深い願いと、罪深い行ないの両方の原因を捨て去る必要があります、一度真の悔い改めを体験するならば、必ず捨て去ることができるのです。私たちの思い、心、そして意志の中に永久に変化がもたらされるためには、悪い行ないという結果である罪に対する悲しみと、悪い願いという罪の原因から私たちを引き離す悲しみとが一体にされる必要があります。

真の悔い改めは、罪深い行ないに冷たく無関心な氷を割るだけでなく、罪深い願いを罪にし、冷たい無関心を固体化させている氷を溶かすこともするのです。

悔い改めの祝福された熱い涙は、罪を犯すことに冷たい無関心の氷を割って溶かし、キリストの貴い血潮の贖いの流れを解き放ち、それによって悔い改めた魂に良心の呵責のない喜びがもたらされます。正しい行ないと行為は、思い、心、意志の中に真の悔い改めが為されたということを忠実に証しします。この真理は、いくら強調してもし過ぎることはありません。

罪深い行ないを悔い改めた後に残された虚しさは、私たちの心と思いを神のことばの真理で満す時だけ心から消え去ります。

人の心と魂の中には、生きる理由あるいは原因に献身し、関わりを持つことによって満たされるべき「空いたところ」があるのです。そして、私たちのいのちと永遠の魂の敵は、自分こそがその空いたところを満たし満足感を

与えることができると騙したがっています。神は、私たちが自分の心と魂の中に何を入れるかを選ぶ自由意志を与えておられます。体験によると、罪はただつかの間だけの満足感を与え、その後は痛烈な後悔の念を残すだけです。キリストの愛と赦しは、私たちの心を喜びと楽しみで満たし、私たちの目を開いてくださり、私たちがこの世で何を選ぶかによって愛または後悔で満たされる永遠を見せてくださいます。

祈り、賛美、神のみことばで私たちの生活を満たすことだけが、真の満足を得させ、罪の原因からの悔い改めで満たしてくれるのです。神のみことばは私たちにいのちを差し出してくださいますが、墮落したルシファーは死を差し出してきました。罪深い行ないを止めるだけでは十分ではなく、私たちはそれを正しい行ないで取り替える必要があります、さもなければ、私たちはまた霊的な心と魂につかのかの間の満足感を求めたり、肉の欲望に委ねてしまい、虚しい痛烈な後悔の念にかられることになるのを忘れないでください。

凄い満足感を常に約束する罪、不倫(姦淫)の例をとってみましょう。人が不倫の関係をもちたいと悪い願いに身を委ねると、間もなくするとそのような関係による結果は苦痛で悲惨であることに気づくはずです。しばらくすると、不倫は思っていたほど素晴らしい喜びも満足感も得させるものではなかったと分かるからです。この人は、残りの人生で平安や満足感ではなく、自分の罪による罪悪感が自分を苦しめていることに気がつくのです。人の肉的な「悪い傾向」とは、何と魅惑的で欺きに満ちていることでしょうか!しかし、そのような不倫を犯した人が遂にその原因である罪深い行為を悔い改めても、心の中にはまだ大きな満足を得た体験への願望が残っています。この人はその次に、罪深い行為を犯すその悪い願いを、何よりも先ず悔い改める必要があります。

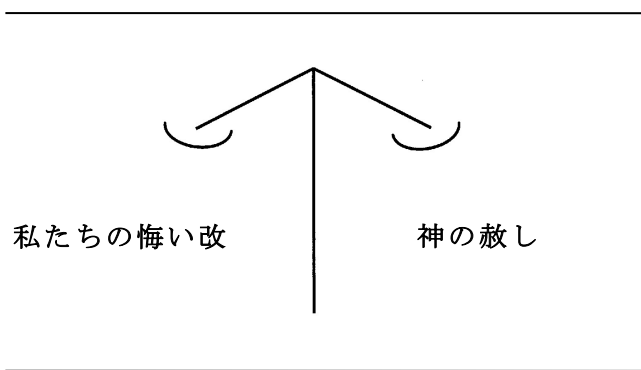
満足感は、神がお創りになったある被造物との交わりからではなく、自分の創造主との交わりを通してのみ得られることを学ぶことができれば、なんと良いことでしょう!キリストとの一体化を通してのみ、人は永遠の喜びを体験することができます。イエスとの愛のつながりは、満足させる

義の行ないを生みます。

私たちの心の中に神がご自身のために創造された「空いたところ」を被造物が満たすことはありません。しかし、愛するお方であるキリストとの生活を追い求めなければ、その虚しさによって、「やっと見つけた。これこそが、私を満たす本当の愛だ!」と考えて、何度も何度も別の被造物からの満足感を探し求めることになってしまうのです。ですから、またしても、別の虚しい関係とつながりを持ち始める羽目に陥ってしまいます。神がこの教えを助けてくださり、私たちが**本当に悔い改める**ことができますように。

罪の原因を悔い改るとは、この世の中に満足を見い出したいという願望から背を向けることです。私たちが本当に罪の原因を悔い改めたのなら、正しい行ないで自分のいのちを満たしたいという願望と、イエスを喜ばせたいという願いが生じます。

私たちの悔い改めは天秤の片側にあり、もう一方の側は私たちの罪を赦す神の赦しです。



悔い改めがなければ、赦しありません。悔い改めは神の心を満足させます。そして、私たちの罪に対する神の赦しは、私たちの心と魂に満足を

もたらすのです。

ルカの福音書に、イエスが、弟子たちに悔い改めと罪の赦しを説教するように命じられた記録があります。

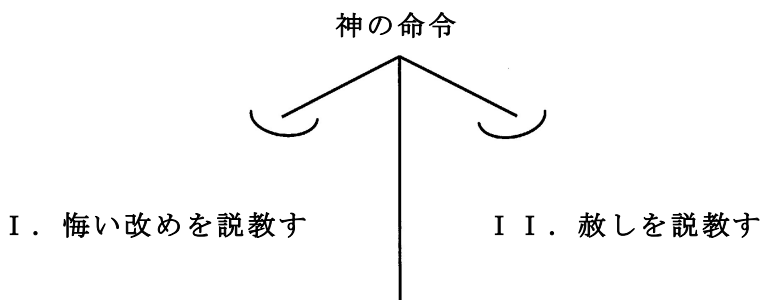
こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に**宣べ伝えられる**。あなたがたは、これらのことの証人です。（ルカ24：46－48）

悔い改めは、バプテスマのヨハネのメッセージであり、働きでもありました(マタイ3:2)。イエスはまた罪のためと罪からの悔い改めを説教されました(マルコ1:15、マタイ4:17)。地上で生活された間に、十字架にかけられたキリストであられるイエスは、ご自身の弟子たちにも悔い改めを説教するようにと遣わされました。そして、復活のキリストも弟子たちが御父から送られた聖霊のバプテスマを受けた後、出て行って悔い改めと罪からの赦しを説教するようにと遣わされたのです。

使徒ペテロは聖霊のバプテスマを受けた後、主の大召命に忠実に、悔い改めと罪からの赦しの最初の教えを説教しました(使徒の働き2:38)。

真の悔い改めは、「神の啓発的な恵み」が人々の心を動かし、罪を知らせ、罪の有罪性、義、またさばきが行なわれることを宣告することにに基づいています。罪人の心が正しく「神の啓発的な恵み」に応えるならば、その心はへりくだって、自分の心の中にある罪を忌み嫌い、イエス・キリストがそれを再生し、改変し、形を変えて、神の似姿へと全く造り変えてくださることを信じることでしょう。

神は、罪の悔い改めと罪の赦しを一つにされ、それらを互いに面して設定されました。



悔い改めを説教することによって、魂は罪を知らされ、悔い改めができるようになります。

神が、悔い改めを説教することをお命じになったのは、それによって、人が神の啓発的な恵みと協力しなければならないことを知って、悔い改めに至るようになるためです。

また、神は罪の赦しを説教されることをお命じになり、ご自身がキリスト・イエスを通してご自身の責任を取られ、人の告白した罪を赦されることを、悔い改めた心が知ることができるようにされたのです。神は、悔い改めた心が神のあわれみ深い赦しとその慈しみ深い赦しを確信することを望んでおられるのです。

I. 悔い改めを説教する

悔い改めを説教することによって、魂に罪が知らされ、悔い改めることができるようになります。

ギリシャ語「悔い改め」という言葉の真意を知ることができるように検討してみましょう。ギリシャ語で「悔い改め」という言葉は、メタノーエーオ (Met-an-o-eh-o)であり、異なる風に考える、良心の呵責を感じる、

良心の刺すような痛み、罪悪感によってもたらされた落ち着かない刺すような鋭い感じ、誤ったことをしたために、または間違ったことをしたがる願望に対して感じる後悔や辛い気持ち、という意味があります。

悔い改めは、内側の自己非難、罪のためまた罪からの有罪宣告という言葉の含みがあります。確かに私たちは自分に有罪宣告を下すことも、正しく非難することも出来ません。それは、神の御霊の啓発する恵みの働きによるものです。キリストの御霊の啓発する恵みによって有罪宣告は下されるのであって、世に生まれて来るそれぞれの人に、その人がそれを認めて神の御霊に委ねようが委ねまいが(ヨハネ1：9)有罪であることを悟らせるのです。

悔い改めとは、罪のために心が悲しむことであり、また内側の有罪宣告、あるいは罪への非難です。キリストの啓発する恵みは、人の良心を通して表された罪悪感の内側の証明であり、罪深い違反を内側で告発することです。私たちは当初(罪人として)悔い改め、主イエス・キリストを自分の救い主として信じ、死と地獄の罰から救いを受け入れましたが、今はクリスチャンとして古い心の内に凄む罪を悔い改める必要があります。



人がキリストの恵みによって救いを体験した後でも、イエス・キリストとは似つかわしくない、その源が私たちの肉、すなわち古い心にある罪深い考え、態度、行為、感情を持っています。私たちは主イエス・キリストを追い求め、神の啓発する恵みと御霊によって私たちの罪を悟らせ、有罪判決を下し、説得していただき、どこで私たちが神の道徳的な真理、神の至上の栄光と神の神聖な御名のご性質を損ねているのかを示してくださるように願い求める必要があります。

私たちは、罪深い人が有罪宣告を感じ、その罪深い状態を悔い改めたいと強く思えるように、罪に対する悔い改めを説教する必要があります。しかし、また罪の赦しも説教し、自分の罪を悔い改めたなら、その罪は洗い流していただけることを感じられることも必要です。

II. 赦しを説教する

有罪宣告は良心に対する「キリストの啓発する恵み」の力強い働きであり、既に犯してしまった罪深い願いや行ないに対して良心を説得し、私たちの心と魂に罪悪感という非難を生み出します。

良心の呵責は、心や魂に罪悪感と神の罰が加えられても当然であるという思いを与えます。私たちが自分の罪過に気づけば、罪と罪悪感からの赦しの説教を受けることは不可欠となり、さらに、罪を悔い改めた魂は自分の罪悪感から解放されることができるのです。

自分の罪悪感から解放されていなければ、自分の病んだ道徳的に罪ある状態は見ないようにして、他の人の病んで道徳的に罪ある状態ばかり見てしまいます。その結果、私たちは問題を抱えた心、いやな態度、それに嫌な性癖の言い訳をすることによって、自分の良心から来る罰、すなわち罪悪感を無視します。

私たちは自分を吟味するどころか、他の人の何が道徳的に間違っている

のかを発見するために他の人を見て、自分の道徳的な問題は無視してしまいます。このようなことをやっているのでは、霊的な教育にも道徳的な発育にも前進することはできません。

しかし、主イエス・キリストの御前に来て、主に祈ってひざまずき、自分の間違っているところを示して咎めてくださるように求めるなら、自分に罪があることを敏感に気づかされ、自分は処罰を受けるに値する者であると分かるのです。私たちがその罪と罪悪感を悔い改めると、キリストが赦しの川によってそれらを取り去ってくださり、私たちの魂が清められ自由にされるのが分かります！そして、自分自身の罪と罪悪感からの赦しを体験し、他の人々が罪深い短所や弱さや罪に葛藤しているのを見て、あわれみを持つことができるようになるのです。

私たちが「キリストの啓発する恵み」を感じる時は、自分の間違っている事に対して有罪宣告を受けているのを感じ、神のみことばにつけてしまった傷に対して後悔の念にかられるものです。「キリストの啓発する恵み」は、私たちが神のトーラの真理を破ってしまった時には、自責の念と後悔の念にかられるようにします。

人は神の罰である憤りを受けるのを恐れて、その罪と罪悪感を悔い改めることが非常に多くあります。そういう人はそれが個人的にどのように影響するのかを恐れているのです。しかし、自分のそのような罪深い過失や罪過が、主のトーラの真理である神のみことばにどれほど影響を与えたかを立ち止まって考えることもないようです。

例えば、私が結婚における不倫問題を扱う時は、夫も妻も自分が神の第七戒を破ったという事実など気にかけたり、後悔したりするのを見ることは稀にしかありません。私はそれぞれの人が、罪深い方の当事者によって為された傷や損害の方を余計に気にしているのが常であることに気づいています。そして、罪深い当事者は、自分や相手方に犯した罪に対してだけ心配し、後悔しているのが常であることを見えています。私は一度として神のことばである第七戒に対して為された破壊的な損傷の罪深い過失や罪に対して後悔を耳にしたり、表さ

れたりするのを見たことはありません。

まず、主イエス・キリストは、「キリストの啓発する恵み」によって、神のみことばに対して犯した罪深い私たちの心に真の有罪宣告、非難をもたらしたいと思っておられます。これによって、私たちが、神のみことばに罪をおかして破壊的な傷をつけてしまった、自分の罪や罪悪感に敏感に感じられるようになるのです。そして、その次に私たちの心が、真理に対して犯してしまった自分の過ちや神に仕えないでいた自分の過ちを認めるなら、「キリストの啓発する恵み」が、私たちの心に深い後悔の念と良心の呵責、そして悲しみを与えてくださいます。一度、キリストの啓発する真理と恵みの光が深く私たちの心に射し込むと、私たちの心は罪の結果に砕かれ、罪の原因に砕かれたことに深く気が付くようになるのです。

悔い改めとは、神に立ち返るということであり、出発点に立ち返るという意味があります。真の悔い改めは常に、私たちを新たに主との新しい出発点に立ち返らせてくれるものです。私たちが本当に悔い改めるなら、イエス・キリストが主の真理、光、そして、いのちを、私たちが神に対して犯してしまった間違った所に置いてくださると信じて、神に立ち返るはずです。

真の悔い改めとは、疎遠、他人状態、神から離れていた状態から、神と愛や友愛のある関係に立ち返ることを意味します。

真の悔い改めとは、敵意ある態度や神への無関心という敵意に背を向けて、好意的に、暖かい優しい気持ちで神に向かっていくことを意味し、それによって私たちの心は新しい愛と愛情で神を礼拝することができるようになるのです。このように、友愛、一致、調和、平安が神と私たちの心に主イエス・キリストの血潮を通して確立されるのです。

悔い改めと赦しが説教され受け入れられた後は、人の魂は微笑んでおられる主の御顔を求めることができ、主の祝福と承認を受けることができるようになるのです。幼い子どもたちが何か悪いことをした後は、このように両親からの承認を求めます。親に従わなかった時、子どもたちは、お父さんやお母さんのところへ行って謝ります。彼らは、両親が微

笑で「大丈夫。あなたの罪も罪過もすべて処分したから。」と言って承認してくれることを待っている時、その目に嘆願や追及心を見ることは簡単です。

これは真の有罪宣告を受けた者の姿であり、私たちは神のことばに対して為された損傷に対して悔い改め、それから幼い子どもがするように、主が微笑んでくださり、私たちの悔い改めが天の御父に受け入れられ、罪と罪過が赦され免除されるまで、**主イエス・キリスト**という神の御前に留まるべきです。

悔い改めとは、私たちが悪に耐えることをすべて捨てることを意味します。私たちは自分の内にある悪に非常に強靱に耐え忍びますが、他人の中の悪にはあまり耐えることができません。私たちは他の人たちが、悪い方法、悪い間違いを捨て去って、彼らがすべてを悔い改め、改善することを望み、それから自分の状況を神がすべて完璧にしてくださると望んでいるのです。しかし、愛する皆さん、私たちはあまりにも自分の心の中にある悪い気持ちや考え、そして自分の悪い行ないに非常に耐えるのが上手になり過ぎています。真の悔い改めは、悪しき、間違った態度を処理してくれます。それは、私たちが他の人の外側に見えるものに対する憎しみと同様の憎しみを、私たちの内側にあるものに対して持つようにしてくれるのです。真の悔い改めは、神の御前に留まって自分の閉ざされた目を開いていただき、他の人と同様に罪ある者と自分を見ることができるようにするのです。

例えば、私たちは自然の不倫という罪は犯していないかもしれませんが、神と自分の間に何らかの別の形のイメージを持っているのです。不倫は「偶像」や「イメージ」という言葉から由来しており、偶像礼拝と不倫は双子の罪なのです。一方は自然の領分で犯されること(不倫、姦淫)、また他の一方は霊的な領分で犯されるもの(偶像礼拝)です。言い

かえれば、偶像礼拝とは、靈的な不倫あるいは姦淫なのです。*

あなたは神との間に何らかのイメージを持っていますか。あなたの人生にとって神より大切なものが何かありませんか。真の悔い改めとは、これらのものを解き明かしてくれるものなのです。

悔い改めは、私たちの生活の中にある罪に聖なる憎しみを与えます。悔い改めは単に外側を修正したり、表面的なデボーションの習慣、施しや断食や祈りだけではなく、悔い改めて、自分の生活の中にある神に喜ばれないものを取り除くという、非常に強い感情を表すことです。

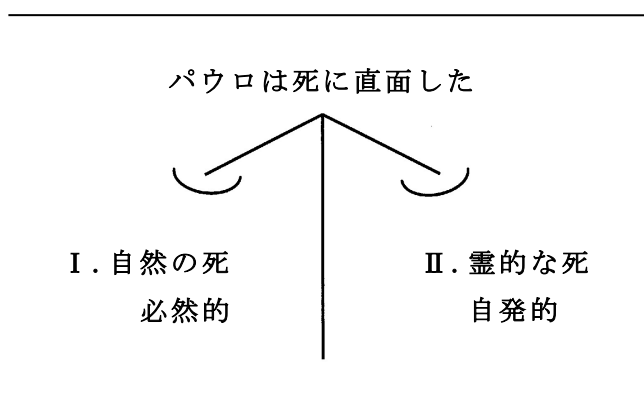
真の悔い改めとは、過去の悪行のゆえに心が悲しみでいっぱいになることです。それは、私たちが神のみことばの道徳的な高い召しである、満ち満ちた靈的な身たけを獲得することができるように、イエス・キリストが、私たちの考え、感情、行ないを主のイメージへと、新生し、改変し、変形させ、全く新しいものに創り変てくださると信じる力強い決心と決意を持てるように神に、へりくだって、その御力を叫び求める心のことです。

キリストが私たちの古い心を新生させ、改変させ、変形させ、全く新しいものに創り変てくださる御働きは、たった一度私たちが、悲しみに満ちた悔い改めをするだけで成されるものではなく、私たちが毎日悔い改め、毎日古い心、古い人、「肉」に死ぬことによって達成されるのです。使徒パウロは毎日が死の連続であると証しています。

兄弟たち。私にとって、**毎日が死の連続です**。これは、私たちの主キリスト・イエスにあってあなたがたを誇る私の誇りにかけて、誓って言えることです。(第1コリント 15:31)

* B. R. ヒックス著 *The Twin Sins of Idolatry and Adultery* 「偶像礼拝と姦淫の双子の罪」 (仮訳) (Jeffersonville, Indiana: Christ Gospel Churches Int' l., Inc., 1979 年) - 2012 年現在翻訳未出版

パウロは毎日の生活の中で、自然にも霊的にも死に直面しました。



I. 自然の死 - 必然的

パウロは毎日の生活の中で、必然的な自分の身体の衰えとキリストの敵が脅迫によってもたらされた差し迫った死の危険に直面していました。したがって、パウロは神の定めれた時に神に定められた方法で、当然喜んで死ぬつもりでいました。

私たちが死ぬことを恐れて萎縮し、生来のいのちをむさぼっているならば、いつか死ななければならないことを知っているわけですから、この世では恐れおののいた悲惨な生き方をすることになります。明け渡して、知識を持った信者であるならば、死ぬことはまた益であると、神のみことばは語っています。

II. 霊的な死 - 自発的

信者が肉と世に対して毎日死ぬのは自発的な責任ですが、それを祝福として行ない得ている者はほとんどいません。多くの信者は絶対に死な

ないかのように生きています。私たちは肉を自分で殺すことによって毎日自発的に死んでいます。私たちは自分の肉的な欲望を処理し、自己否定、断食、祈りによって肉を制御することによって毎日自発的に死んでいます。私たちは自分の意志をへりくだらせてキリストの十字架にかけることによって、自分の支配と統治の力に死ぬことができるのであって、そうする時、御父のみこころに明け渡して服従し、従順なキリストの似姿によみがえることができるのです。私たちの魂をキリストの御手の中に委ねて自分の世的な関心を神の主権で治めることができ、それによって、イエス・キリストとのさらに親密な交わりを養うことができるようになるのです。

私たちが毎日死んでいくにつれ、私たちが今生きている敵意に満ちたこの世界に対してさらに無関心になっていくのです。毎日自発的に死ぬことによって、自分の肉的な性質が朽ち果てるのを治めるのです。キリストと共に死に始めたその瞬間からまさに、キリストにあって新しく生き活きと生き始めるのです。毎日自ら進んで死ぬことは、主が私たちの意志をキリストの御手の中で、厳粛に主の聖なるみこころのイメージと似姿に造り直し、再び形造してくださるよう、自分の意志を放棄することになるのです。

毎日進んで死ぬことによって、私たちは以下の恩恵をすべて刈り取ることになります。すなわち、この現存する悪しき世界とその世的な楽しみから離れること、神と新鮮で清い関係を持つこと、キリストの身だけが自分の中で成長し育成するための場所をさらに造り、天の花婿としてのイエス・キリストの卓越した甘美な交わりを知り得ることができるのです。

私たちが決心すべき問題は、肉を殺したり自己否定をしたりする展望の好き嫌いに関わらず、私たちにとってわずかな数年の短い歳月を自己満足で過ごし、その終わりにキリストの花嫁になるという賞与を見逃すか、あるいは、自ら進んでそのわずかな数年の短い歳月で毎日死に、その終わりにキリストの花嫁という賞与を獲得するのでは、どちらがより好ましいものであるかと

ということです。

明け渡した意志は、十字架につけられたキリストと共に死に続け、復活したキリストと共によみがえり続けるという喜びの体験をもつのです！

このように、毎日の理論的な悔い改めと赦しが体験的な悔い改めと赦しとつながると、私たちの考えや気持ちや行ないは修正され、罪悪感から自由にされます。しかし、私たちの悔い改めが理論的なものだけであるのならば、壁から汚水が入って来る場所を探しすことも修理することもせず、地下室の汚水を絶えず汲み出しているようなものです。

真の悔い改めは、私たちの心や、思いや、意志の中にある罪深い行ないという汚水が入れて来る穴に栓をしてくれます。

神は悔い改めたすべての人に恩赦、赦し、赦免を約束してくださっていますが、悔い改めないで罪を犯す人には赦しを約束してくださっていないことを心に覚えておいてください。

私たちが罪を犯す時、神の御前に罪がありますが、それを悔い改めないなら私たちの罪過はさらに大きくなります。使徒ペテロのしたように主を否むことは罪深いことですが、私たちが主を否んだのなら、泣いて悔い改めなければペテロよりさらに悪いのです。なぜなら、ペテロは確かに悔い改めたからです。

真の悔い改めとは、私たちを靈的に病気にしている罪深い考えや気持ちや行ないを憎むことです。真の悲しみは、自分の罪によってもたらされた刑罰や罰を避けたいという願い以上のものを含んでいます。すなわちそれは私たちが神の聖なることばに対して犯した破壊的な傷に対する深い靈的で精神的な苦痛と神の聖なる御心に私たちがもたらした嘆きを含んでいるのです。

悔い改めた人の魂がその悔い改めを通して神の愛、慈悲、恵み、赦しを見い出した後は、自分が悔い改めた罪を憎むようになることでしょう。私たちは、罪に対して正しく本当に嘆き悲しむ方法を学ぶ必要があります。私たちが嘆き悲しむのは、単に私たちが神の罰である死と地獄にさ

らされるからではなく、罪は悪質な悪であるが故に嘆き悲しむ必要があるのです。それは神にとって攻撃的なことであり、私たちの幸福にとって破壊的なものであるのです。

神に真の悔い改めを教えてくださいと懇願しようではありませんか。そうすれば、私たちは自分の罪に対する神の赦しと恩赦、それに神ご自身の個人的なご臨在の喜ばしい交わりという真の満足を体験することができるのです。イエス・キリストを自分の所有者また主人とする真の霊的なつながりによって、罪と罪悪感が私たちの心や生活を支配している時に感じる孤独で隔離された不幸な気持ちから自由にされるのです。毎日の真の悔い改めの祝福があなたのものになりますように！

